

中国上海市訪問 報告書

2008年10月



(上海外国語大学 日本文化経済学院訪問)

神奈川県議会議員

同

鈴木 恒 夫
しきだ 博 昭

私たちは、去る10月23日（木）～25日（土）にかけ、横浜上海友好提携35周年記念レセプションに参加するため、横浜日中友好協会訪問団の一員として、万博を控え活気溢れる上海を訪れました。

上海出身の王祝先生（現慶應義塾大学訪問教授）にご同行いただき、このたびの訪中を機に、様々な関係先を訪問し、要人との意見交換を行うなど、大変有意義な上海訪問となりました。

改めて、滞在中、貴重なお時間を割き、有意義な機会をお与えいただきました皆様に深く感謝いたしますとともに、ここに、訪問先等における意見交換の概要を記し、報告に替えさせていただきます。

最後に、このたびの訪問にあたり、各方面への連絡調整にお力添えいただきました王祝先生、また通訳としてお世話になった高さんに感謝を捧げたいと思います。

2008年11月

神奈川県議会議員 鈴木 恒 夫
同 しきだ 博 昭

2008年10月上海訪問日程

月 日	日 程	宿 泊
10/23 (木)	<p>午後 東京羽田空港→上海虹橋空港 (MU538便/13:30-15:50)</p> <p>18:00 上海市人民对外友好協会 歓迎夕食会</p>	新錦江大酒店
10/24 (金)	<p>09:30 上海外国語大学日本文化経済学院 (許慈恵院長・徐志強副学院長)</p> <p>11:30 上海市政治協商会議 (宋儀僑副主席・副議長に相当)</p> <p>15:00 上海博覧会事務協調局 (鐘燕群専属副主任・副市長に相当)</p> <p>17:00 上海・横浜友好都市提携 35周年記念レセプション</p>	同 上
10/25 (土)	<p>午前 上海虹橋空港→東京羽田空港 (MU537便/08:45-12:30)</p>	

10月23日(木) 夕方

上海市人民对外友好協会幹部との会見

周慕堯上海市人民对外友好協会会長 あいさつ

このたびのご来訪を心から歓迎申し上げます。

滞在中、有意義にお過ごしになれるよう、お祈り申し上げます。

また、長年にわたりまして皆様は中日友好にご尽力くださったことに対して、心より御礼申し上げます。

皆様は、上海にいらして自分の家に帰ってきたといった気分で気軽に過ごして下さい。

皆様の今回の訪中の円満なるご成功をお祈りします。ありがとうございます。



新堀豊彦横浜日中友好協会名誉会長 あいさつ

我々、横浜日中友好協会は、上海市对外友好協会とは、これまで兄弟のようなお付き合いをさせていただきました。また、今回の訪問団をお迎えいただきましたことに対し、心から厚く御礼を申し上げます。

上海の発展ぶりを、毎回来るたびに感動をもって見ています。今回は、周会長先生はじめ、幹部の皆様とお会いできることを大変喜んでおります。

上海は、万博が目の前に迫っておりますが、横浜は開港150周年が来年です。横浜市民あげて、今、準備を進めています。是非、来年お越しいただければと思います。

後ほど、またゆっくりお話させていただきます。今日は、大変ありがとうございました。



上海市人民对外友好協会主催歓迎宴

汪小樹上海市人民对外友好協会副会長 あいさつ

尊敬する横浜日中友好協会名誉会長新堀先生、横浜日中友好協会訪中団の皆さん、こんばんは。

35年前は、上海と横浜は、友好都市提携いたしました。それ以降、上海と横浜は関係が親密になりました。また、上海と横浜の二つの街の友好関係の新たな1ページを開いたと言えます。この上海横浜友好都市提携35周年という節目の年に上海で横浜の皆様をお迎えすることができまして本当に嬉しく思います。

私は、上海市人民对外友好協会及び周会長を代表いたしまして、皆様のご来訪を心より、歓迎申し上げます。

横浜は、上海の初めての友好都市であります。中国全国においても、二つ目の友好都市です。上海と横浜の友好都市提携は、特別な歴史的な深い意味があると思います。中国では、『水を飲むとき井戸を掘ってくれた人のことを忘れてはいけない』ということわざがあります。ここに、上海横浜友好都市提携にご尽力下さった横浜の大先輩の皆様に、最高の敬意を表すと同時に深く御礼を申し上げたいと思います。

35年前、開花した友好事業は本市でもますます発展しつつあります。今晩は、ここで横浜の古き友人、新しき皆様と一緒に友情を語り合って、さらにこれからの友情関係を深めていきたいと思っております。

35年経ちましたが、上海も横浜もずいぶん変わったと言えます。また、中日両国は、交流する分野もますます広がって、交流する事業もますます多くなっていると思います。上海のはじめての友好都市の横浜と上海の友好交流事業は、友好都市の分野でリードしていきたいと思っております。

新たな交流を開拓していきたい、また、リードしていく立場を守っていききたいと思っております。

中国のもう一つの古いことわざがあります。『長江の波は、後ろから前へ進んでいく』ということわざがあります。両市は、現在、将来に向かってこれからの友好交流事業が末永く続くために、後継者も育成しています。上海と横浜両市の益々のご発展をお祈りいたします。

中日両国の世々代々の友好のため、また、ご臨席の皆様のご健勝をお祈りいたします。また、ご訪問の円満なご成功をお祈りいたします。



飯田助知横浜日中友好協会会長 あいさつ

ご紹介いただきました横浜日中友好協会の会長の飯田でございます。

本日は、菊薫る大変よい季節に、周会長はじめ、たくさんの幹部の皆様のお揃いのなかで、歓迎と交流の宴を設けていただき、ほんとうにありがとうございます。

私どもは、横浜上海提携35周年、この事業を実りあるものにするため昨年9月から実行委員会を組織いたしまして、準備を重ねて参りました。そして今年の3月に汪小樹常務副会長はじめ、上海代表の方が横浜を訪れて、綿密の準備を行いました。

横浜と上海は、横浜が来年150年を迎えますけれども、上海はそれに先立つ16年前ですから、おそらく今年が、開港165年にあたるのではないかと思います。

両都市は、稀に見ぬ類似点をもっていると思います。横浜は、日本列島の海岸線を辿りますとちょうど中央にあたります。上海は、中国の海岸線を辿りますと大連から香港までのちょうど半分のところに位置しています。そうした地理上の優位さをいかんなく発揮して、それぞれの国の中心的な役割を果たす、そういう仕事を両都市は今日まで果たしてきているように思います。その背景には、やはり、国中の優れた人材が集まるところ、そして、大変優れた文物がここに集中しているということのように思います。それだけ魅力のある都市ということが言えるかと思いますが、ここまでくるまでには、先人たちの大変な努力があったということも歴史が明らかにしています。それぞれの都市とも、開港、港を開くということについては、必ずしも積極的ではなかった、つまり、欧米をそれほど信用しなかったという中で、受動的、受け身的な開港を迫られたということも共通にもっておりますが、その後、それを見事に跳ね除けて能動的な開港という路線をしっかりと敷くことができた。これからも、おそらく、その地位は揺るぎなく発展していくものと思います。

日本には、『変化』ということを嫌う側面があると同時に、『日々新たなり』と常に変化することを前向きに捉えることばがございます。まさに、横浜も上海もまさに推進しているということを目の当たりにすることができるのではないかと思います。そういう勢いを今後とも継続すること、そして両都市がその緊密度を深めていくこと、このことを祈念してごあいさついたします。



新堀豊彦横浜日中友好協会名誉会長 乾杯あいさつ

先ほど、少しごあいさつさせていただきましたが、私も20年にわたって横浜日中友好協会の会長として上海とのお付き合いを緊密にさせていただきました。この6月に飯田先生に交代いたしました。しかし、私は1972年、国交正常化以来、古い井戸を掘った一人として横浜上海もそうであります。日中関係の様々な仕事をさせていただいて参りました。



この35年の間には、ずいぶんいろいろなことがたくさんありましたが、とにかくその流れの中で、私どもは今後とも横浜と上海との関係を是非とも深めていき、お互いの友情を温めていきたいと思っております。

それでは、周会長先生、汪常務副会長先生はじめ、大変お世話になっております。対外友好協会の皆様の今後のご健康を祈り、そして横浜と上海、そして日本と中国のますます仲良く発展していくことを祈念して乾杯したいと思います。乾杯。



(周慕堯上海市人民対外友好協会会長)



(廬湾高級中学校の生徒さんによる民俗舞踊や民俗楽器の演奏)

10月24日(金) 午前

上海外国語大学訪問

上海外国語大学 日本文化経済学院 許慈惠学院長と面会

敷田博昭

お忙しいところ、お時間をいただきありがとうございます。

2年前に桜の記念植樹でお邪魔させていただいて以来の訪問ということで、大変懐かしく思います。さきほど、2年前に植えた桜の木が立派に育ち、大切にさせていただいている様子を見て、とても嬉しく思います。

このたびは、横浜上海の友好提携35周年の記念式典が開催されるということで、その訪問団の一員として今回はお邪魔をさせていただきました。この機会に、王祝先生にいろいろお骨折りをいただき、若い世代の日中友好交流の促進に取り組んでおられる上海外国語大学を訪問させていただき、先生はじめ学生さんとの交流の機会をいただけると大変有り難いと思い訪問させていただきました。

先ほど、神奈川県でも1980年代には、教育委員会から教員を派遣して指導にあたって、大変感謝されたという話をお聞きいたしましたが、人的な交流が、学生さんのみならず、教員、職員をはじめ、またわれわれもそういった交流が一層深まれば、たいへん良いことだと思います。



許慈惠学院長

できれば、年に1回とかチャンスがあれば学生たちと教室で交流していただきたいですね。

鈴木恒夫

私は、横浜のとなりの藤沢に住んでおりまして、たまたま縁がありまして、湘南日中友好協会に入っておりまして、そこの会員の方が日本語の派遣講師として、雲南省の昆明に行って6年間お世話になって、優秀で彩雲基金という基金があつて報奨金をもらって、そのお金をもとに日本でお金を集めまして、雲南省昆明で3月に日本語のスピーチコンテストをやります。優秀者を藤沢に御

招待する、その基金を集めている最中です。また、日本に多くの人に来ていただけるようになると思います。

許慈恵学院長

日本語の教員派遣の仕事もされていますか。日本から、中国へ。

鈴木恒夫

日本から雲南省に、絶えず日本語を教えに行っています。

許慈恵学院長

それは、高校の先生ですか。

鈴木恒夫

中学校の先生です。国語の。



許慈恵学院長

中国にいらっしゃる間は向こうに籍は置いたままですか。

鈴木恒夫

そうです。

許慈恵学院長

それでしたら、いいですね。保障されるわけですね。もとの職場に復帰できますね。そういうのを、こちらからお願いできないでしょうか。こちらは、今とても人手不足で。



鈴木恒夫

募集すれば、そういった意欲のある人もいないんじゃないでしょうか。

敷田博昭

その間の滞在費用は。

許慈恵学院長

もちろんこちらで持ちますし、宿泊も提供できますし、生活費も大丈夫です。

敷田博昭

こちらでも、日本語スピーチコンテストを実施して、神奈川県から教員を派遣したりといった交流が進めば、藤沢市と昆明でやられているように優秀者を神奈川県に招待して日本の滞在していただき、日本の文化を体得して帰っていただくといった相互交流ができれば良いと思います。



王祝

藤沢市と昆明との関係は、中国國家の作曲者である聶耳（ニエアル）さんの故郷と亡くなった場所ということで交流が始まったと聞いています。聶耳（ニエアル）さん、出世は上海ですね。

敷田博昭

今回、友好提携締結の当時を知る大先輩の皆様と一緒に来てますが、35年前という、私はまだ5歳でしたから、これから、また一層の友好交流に務めていきたいと思います。私たちが植えた桜の木がもっとももっと大きく太くなるよう期待いたしますし、また、改めて桜の咲く時期にお邪魔したいと思います。

許慈惠学院長

また、是非、来て下さい。

敷田博昭

これから、学生さんと交流させていただけるということで、大変楽しみにしています。

許慈惠学院長

学生と交流していただけたら嬉しく思います。

3年1組の授業にお邪魔いたしました

鈴木恒夫

みなさん、おはようございます。

私は、鈴木恒夫と申します。日本の神奈川県、知っていますか、上海から羽田に直行便が出ていますが、羽田空港から30分くらいのところに横浜がございますので、大変便利だと思っております。そこの神奈川県議議員を務めております。



私は、横浜の隣の藤沢市というところに住んでおります。藤沢市は、中国国家の作曲者の聶耳（ニエアル）さんが海岸で亡くなったところでありまして、藤沢市は雲南省の昆明市（聶耳（ニエアル）さんの出生地）と姉妹提携をしております。そちらの方に日本語の教師を派遣したりといった交流をしております。文化的な交流がたいへん盛んで、藤沢市でつくった文芸館というのがあります。そこで文化交流を5年に一回くらい行っています。その時いつも私も訪問しています。

是非、皆さんも日本にお越し下さい。これからも仲良くしましょう。

敷田博昭

みなさん、こんにちは。

（学生さん：こんにちは）

私の名前は、黒板に書きました。敷田といます。年齢は40歳になりました。私は、横浜から昨日参りました。生まれは、皆さんご存知でしょうか、広島で生まれ、今、横浜で鈴木先生と同じ神奈川県議会議員という仕事をさせていただいております。



私は、上海は何度か訪問させていただいて、私は学生時代、はじめて海外旅行を経験したのが、実は上海なんです。横浜から船で3泊4日かけて、当

時鑑真号という船が、横浜上海間で運行されていました。みなさんのお父さんお母さんも場合によっては、利用された方もおいでかも知れません。今は、飛行機とか便利になったので廃航になりました。3泊4日かけて上海の港に着いて、上海で何泊かして、列車で北京に向かい、その後、大同を訪れ、石窟を見学し、北京を経由して上海に帰って、今度は2泊3日かけて神戸に帰ったというのがはじめての海外旅行の経験でした。そういった意味では、上海また中国というのは、自分にとおては、とても親しみ深い、また思い出深い国であり都市でもあり、また、今日もご一緒いただいております王祝先生はじめ中国の、特に上海の皆様との交流はこれまで以上に進めていきたいと思っています。

実は2年前、ここの玄関の前に桜の木の植樹にお邪魔させていただいて友誼林の石碑と桜の木の植樹をさせていただきましたが、みなさんがとても大事に育てていただいていることをとても嬉しく思います。(学院長：こちらこそ、ありがとうございます) そういう意味では、みなさんとの友好の絆も桜の木と同じように太く強くまた枝葉のように広がっていくことをほんとうに心から望んでいます。

神奈川県から先生がこちらの学校にも1980年代までは交流があったと先ほど伺いました。これから、帰りましたら、日本の神奈川県の先生方や、また皆さんのような若い世代の方々の交流にこれからも一生懸命務めていきたいと思っていますので、是非、また機会がありましたら私も喜んでこちらにお邪魔したいと思いますし、皆さんもご縁がありましたら、今、船は通っていませんけれども、羽田空港、大変近くに横浜、神奈川ありますので、是非、お出かけをいただければと思いますので、その時には心から歓迎をしたいと思っています。



日本語たいへん難しいと思いますけど、是非、がんばっていただきたいと思います。以上でごあいさつとさせていただきたいと思います。

みなさん、ありがとうございました。

(学生さん：ありがとうございました)

王祝

みなさん、こんにちは。(学生さん：こんにちは)

鈴木先生と敷田先生、先ほどご紹介ありましたけれども、お二人の先生は中

国との付き合いがとても長いですね。敷田先生は若いですが、今、日本で民間団体の日中発展協会の常任理事で日中の仕事に携わっていただいています。敷田先生、これからもよろしくお願いします。



今日、私はこちらに戻るのには、本当に嬉しくてたまらないという感じです。なぜかという、実は私はもともと上海出身なんです。歳は54です。

実際、上海外国語大学は私の第二の母校といえます。それで、許先生は私の先生でもあります。なぜかという、私は、二十数年前、みなさんまだ生まれてないですけども、1982年から84年まで、2年間、3年生と4年生、ここで学生生活を過ごさせていただきました。どうもありがとうございました。90年代、日本に行きまして、私は専門は法律ですけども、今は慶應大学で客員教授をしておりますが、それと同時に、もともと出身は上海ですから、特に私は上海外国語大学の出身でもあると思ひまして、2年前、日中発展協会としてここで場所をお借りして、先生方と、当時はみなさんは一年生だったと思いますが、みなさんと一緒に植樹活動をさせていただきました。

今年は、ちょうど中日平和友好条約30周年、また上海横浜35周年です。これからの35周年、30周年は、敷田先生やみなさんをお願いします。

鈴木恒夫

みなさんに、今日、プレゼントをもってきました。

私、歳を言うのを忘れましたが、私、いくつにみえますか。



敷田博昭

怒らないから、正直に言って
(学生さん：笑い)

鈴木恒夫

実は、58歳になりまして、孫がおりまして、皆さんより大きな息子が二人おりまして、二人とも就職してるんですけども、下の子は、確か外国語は中国語を専攻しておりまして、是非、私よりも皆さん親しくしてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

これは、藤沢のお祭りの時に作った半纏、タオルを折ってつくったタオル半纏ですが、皆さんに一つずつプレゼントします。

皆さんも、是非、藤沢に来て、聶耳（ニエアル）さんの石碑も見て下さい。

敷田博昭

横浜と上海の友好提携、今年35周年ということで、今日の夜、記念レセプションに参加いたしますが、来年は、横浜開港150年ということで、今準備をしていますので、是非、来年、横浜を訪問していただければ、歓迎したいと思います。



10月24日(金) 午前

政治協商会議上海市委員会訪問

宋儀僑上海華夏文化經濟促進会会長（前政治協商会議上海市委員会副主席）

お会いできて大変嬉しく思います。

現在、政治協商会議では政治協商会議の歴史について紹介するための様々な準備を進めています。当時、中国は改革開放の時代を迎えていました。それは、これまでの政治協商会議30年の歩みです。この部屋は、香港とマカオの部屋です。日本の部屋があれば、そこでお迎えできたのですが。

みなさんのご来訪を心から歓迎いたします。華夏文化經濟促進会は、上海の文化団体の一つです。この華夏文化經濟促進会は、上海で唯一の文化面、經濟面を含め様々な分野の総合的な社会団体です。我々は、様々な外国の友人をもっています。今日、敷田さんたちとお会いするのは、とても自然なことですが、我々にとっては、少し遅いかもかもしれません。もっと以前からお会いしていれば、もっと良かったと思います。今日、みなさんと知り合ってとても幸せです。

我々、華夏文化經濟促進会の主な役割は、經濟交流と文化交流です。この二つの面では、国内でも海外でも、様々な事業を行っています。その他、対外友好交流を行っています。この華夏文化經濟促進会には、多くの大企業が参加しています。中小企業も参加しています。国有企業や私有企業など、様々な企業が参加しています。企業の形態によって、それぞれ特徴があります。上海のタバコ企業、自動車企業、造船企業、すべて会員です。そしていろいろな民有の企業もあります。これからは民有企業、私有企業が多くなります。その他には、文化団体もいくつかあります。上海市内のいろいろな劇団と音楽団体もうちの会員です。それは、私たちにとって、資源でありサービスを提供するお客様という二つの側面をもっています。

今の社会は情報化社会ですが、情報は企業とサービスの受け手では、同じ情報でも受け止め方が違います。そのギャップを解消していくのが我々の仕事であり、こうした架け橋になれるよう取り組んでいます。

以上が、我々、華夏文化經濟促進会の説明です。



敷田博昭

今日は、王祝先生のご紹介で、宋会長はじめ幹部の皆様とお会いをさせていただく機会をお与えいただき、たいへんありがとうございました。今日は、鈴木恒夫先生と一緒に伺いさせていただきました。

今年は、横浜上海友好提携35周年ということで、今日の夜、こちらで、横浜の市長さんもその記念レセプションに参加するためおいでですが、私どももその訪問団の一員として、昨日、上海に参りました。



横浜は、来年、開港150周年ということで、現在、その準備で大変活気があります。同じく上海も万博のご準備で本当に大変な時期だと思いますが、お互いがこうした相互交流を通じて、民間レベル、また政治そして経済や文化いろんな交流が促進されることを期待しています。

鈴木恒夫先生は藤沢がご地元ですが、中国国歌を作曲された聶耳（ニエアル）さんが亡くなられたところですが、上海で作曲活動をされ活躍をされたというご縁もありまして、藤沢市長と一緒に、上海との今後の交流のお手伝いをしていきたいということで、このたび、横浜上海の35周年に併せてご一緒いただいたところです。

これまでも、王先生を通じて、日中発展協会の役員としてお手伝いをさせていただいて参りましたが、上海市内に日本の桜の木を植える事業に参加をして参りましたし、また、そういった機会を通じていろんな分野の方々との交流に努めて参りました。

午前中も、上海外国語大学の日本文化経済学院の学生さんたちと交流させていただいて、2年前に桜の木を植樹した場を改めて訪問して、とても大切に育てていただいている様子を拝見し、大変感謝しています。

中国から日本を訪問される皆さんの受け入れのお手伝いや、中国上海をはじめ各都市を訪問させていただく際には、今申し上げた日中発展協会を窓口にいろんな交流をさせていただいて参りましたし、王先生には、たいへんなお力添えをいただき、感謝いたしております。

今日は、協会のパンフレットをお持ちいたしましたので、また後でご覧いただければと思いますが、河野太郎会長のメッセージをお持ちいたしましたので、代読したいと思います。

拝啓 錦秋の候 貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、当協会一行の貴促進会への訪問について、ご多忙中にもかかわらず格別のご高配をいただきましたこと、衷心より御礼申し上げます。さて、当協会では、民間的視野と立場において日中間の文化経済活動を自主的に行うことが基本的趣旨であります。こうした中、現在、当協会は相互交流をさらに充実させるための環境整備等の取り組みを進めております。ここに、平和と調和を伝える民間の使者として両国民に友好と協調の希望をもたらすために努力されている貴促進会に心から敬意を表すとともに、今後とも貴促進会のご協力とご指導をよろしくお願いいたします。

なお、末筆ながら、宋先生のご多幸と貴促進会のご発展をお祈り申し上げます。

華夏文化経済促進会

会長 宋儀僑様

日中発展協会

会長 河野 太郎

(代読)

宋儀僑会長

河野先生からのメッセージ、ありがとうございます。私は、1993年に日本を訪問した時のことを思い出しました。当時の団長は、呉邦国さん（現在の全人代常務委員会委員長）で、秘書長は、私が務めました。

当時、訪問団は、総理大臣、衆議院議長にもお会いいたしました。河野洋平先生にもお会いいたしました。当時は、確か内閣官房長官だったと思います。河野洋平先生のお子さんの河野太郎さんも今活躍されていますが、先ほどのメッセージをお聞きし、当時の1993年のことを思い出しました。当時私は、上海共産党の常任委員の秘書長でした。

横浜市と上海市の友好都市提携は35周年を迎えました。中国の改革開放よりも以前のことです。

このたび、日本の神奈川県と横浜市の様々な方々が上海を訪問していただいたことを、私は心から感謝し、このたびの事業が成功に行われるように心からお祈りしています。

今回の会談は、王先生を通じて行われていますが、今後も、こういうルートを利用して交流しましょう。

それでは、食事をとりながら、また、お話ししましょう。

歓迎昼食会

宋儀僑会長

上海市中国共産党常任委員会の秘書長を務めています。政治協商会議の第一副議長を務めています。中国の政治協商会議は、日本の参議院に似ています。

先ほどご紹介した蔣先生は、華夏文化経済促進会の副会長を務めておられます。対外交流活動が主な担当です。その他に、あと二人の副会長がいます。それぞれの副会長の役割は、文化と経済です。今日は、この二人は、別の用事でいらっしやいません。張先生は、華夏文化経済促進会の秘書長です。丁さんは、対外交流担当で蔣先生のアシスタントです。



中国にとっては、日本は、改革開放以来、交流頻度が高い国です。改革開放当時は、私は、精密機器管理局の局長をしておりましたので、日本側の技術者と意見交換をしていました。

それでは、乾杯しましょう。今回の交流活動の成功と今後の交流活動の成功をお祈りして、乾杯。

敷田さんは、広島生まれですか。私も、以前日本を訪れたとき、広島に行ったことがあります。

敷田さんは、広島生まれですか。私も、以前日本を訪れたとき、広島に行ったことがあります。

敷田博昭

河野洋平先生が、このたび政界を引退されることになり、大変寂しく思います。私は、河野先生の秘書を務めていた鈴木恒夫衆議院議員の秘書を約10年務めました。今、日中発展協会の会長である息子さんの太郎議員とも大変親しくさせていただいています。今は、県議会で、同じ名前の鈴木恒夫先生に大変お世話になっています。

鈴木恒夫

私は、河野洋平さんの叔父にあたる河野謙三さんという参議院議長がいましたが、その方に仲人をしていただきました。そういった意味では、私も河野家とは、大変親しくさせていただいています。

宋儀僑会長

日本では、政治家を引退するのに、年齢制限がありますか。私は、この3月政治協商会議から引退しました。そして現在、華夏文化経済促進会の会長に就任いたしました。私の引退の理由は、中国の公務員にとっては年齢の制限がありますから、引退しなければなりません。

中国の公務員の年齢制限は、65歳です。中国では、高いレベルの公務員でも65歳になったら引退しなければなりません。

河野洋平先生は、今おいくつですか。

鈴木恒夫

71くらいだと思います。

宋儀僑会長

中国の公務員には、制限があります。どの職責も2期以上できません。1期5年ですから、10年以上できません。



宋儀僑会長

改革以前の日本との交流は、主な経済的な交流は、投資関係でしたが、今は製造分野からサービス分野に転換してきています。上海周辺、いわゆる揚子江デルタ地域は、上海と協力して改革開放を行うという要望が強いです。例えば、安徽省では、海外とのつながりはあまりないので、我々は、促進会を紹介され現地を視察いたしました。我々の促進会を窓口として、技術の導入などを行いたいとの要望を受けました。現在は、国内では土地の問題があり土地の確保が困難ですが、現地は中央、国务院の許可を得ている土地がまだあります。この前、一緒に現地視察に行ってきました。上海と比べると結構遅れているところで、つまり90年代の上海といったところでしょうか。

以前は、上海は製造業中心でしたが、現在は揚子江デルタ地帯に移っています。この前、現地が、広告宣伝をだしました。その内容は、上海技術移転モデル地区というものです。汚染のない製造業などの進出は可能です。機械加工地域と電子開発地域も視察いたしました。政府は、インフラ整備に力を入れています。現地の要望は、促進会の会員に現地に投資して欲しいと言われていますが、日本の企業も現地への進出の要望があればご紹介します。まだまだこれから発展する余地のある地域です。今年の12月、上海で説明会が行われる予定

となっています。日本の方々も、興味があれば参加して下さい。また、現地を視察されたいと言うことであれば現地政府をご紹介いたします。今日、皆様とお会いしたことも現地に伝えておきます。



私は、促進会の会長であると同時に、上海現代サービス業協会の会長でもあります。上海は、製造業からサービス業に転換してきていますので、製造業は周辺に任せ、サービス分野に力を入れています。今、上海が力を入れている分野は4つあります。一つは、金融サービスです。この中には、銀行、先物、証券とかいろんなものが含まれています。国内では、金融中心地としての地位の確立に務めている都市が二つあります。それは、上海と北京です。先日、ある会議で上海と北京の戦いはどのように解決していけばよいのでしょうか、という質問がありました。やはり、それぞれ特性があります。北京は、多くの銀行の本部がありますから、政策のマクロ面のコントロールや金利の決定など、マクロ面のメリットがありますが、これに対して上海は、取引上の様々な情報を集め、いかに活用していくかといった点は上海の役割でしょう。二つ目は、海運と物流です。上海は、横浜とよく似ていて、小さな港から発展してきた大都市です。今、上海港の荷物の量は世界一で、コンテナの数は、世界第二位です。しかし、これだけでは十分ではありません。港運のサービス業、例えば海上保険や海運の金融など様々な保険を充実させ、海上のトラブルの処理する産業を充実させなければなりません。また、倉庫業などの充実も重要です。仲介業もそうです。港運と水上運輸という面は、一つのチェーンですからその一つ一つをきちんと整備しなければなりません。3番目は、情報サービスです。やはり、情報業は、様々な産業にサービスを提供すると同時に、自らも発展していきます。4つ目は、製造業に対するサービスです。以前、日本のトヨタを訪問しましたが、そこでの、生産方式が大変勉強になりました。段々、それぞれの専門分野に任せる分業制は、これからの上海にとって参考になります。

先ほど、鈴木先生からホテル業のお話がありましたが、ホテル業もニーズが高まっています。先日、アメリカのホテル業の方から、上海ではどういったホテルが必要ですか、どういうサービスを提供すればいいですか、どこに立地すればいいですか、と聞かれました。私は、こうした問題は市場で決めなければなりません、ニーズがあるかどうかを見極め、それぞれの会社が決断すべき問題ですと答えました。

上海に南浦という橋がありますが、そのそばの団地に住んでいるのはほとん

どが、日本人です。その団地の様々なサービスは日本人の習慣に合わせて提供されています。子どもの遊園地や女性の美容院や男性のサウナなども日本式に運営されています。

敷田博昭

上海万博の会場を、これから視察させていただきますが、あの場所は、以前は製鉄所などがあったと思いますが、やはり、先ほどお話がありましたように、製造業が安徽省とかそういった周辺に移って行って、上海は金融などのサービス業にどんどん移っていくといった大きな流れとして進んでいるのでしょうか。

宋儀僑会長

すべての製造業を地方に移す訳にはいきませんが、例えば実力のあるハイテク企業などは上海の郊外に残しています。

敷田博昭

今、日本でも課題になっていますが、都市化が進み、産業が活発になり、人が多く住めば住宅が必要になってくる、以前は、このあたりも畑がたくさんあったわけですが、どんどんなくなり、食べ物の供給が追いつかなくなるといった問題もこれからますます深刻になってきますね。

以前、王さんと一緒に太倉市の港を視察させていただきましたが、横浜港、上海港の交易や、羽田空港、虹橋空港など、我々も利用してこちらに来ましたが、これから、人・モノ・情報がますます活発になるんだなと実感しています。

宋儀僑会長

上海でも、今、人口の過密化という問題があります。上海でも、これまで世界各地の都市の研究をしてきましたが、その中でも特に日本に感心しているのは、工業地帯は北は北海道から関東、関西など沿岸地帯に発展していますが、内陸には、まだまだ自然が残されています。特に緑が多く残っています。中国は、国土は広いのですが、山の中に道もなく数十人しか住んでいないところも多くあります。そういったところをどう発展させていくか、専門家は、それはある程度集中させないといけないと言っています。

数年前、政府は、県レベル（中国の県は市の下）の経済を発展させていくことによって、大都市への人口集中を食い止める効果もあると考えていますが、時間がかかります。現在は、農村部の若者が大都会に出稼ぎに来ているのも事実です。

私は、中央政府、指導者の考え方に賛成しています。地域の若者が上海や北京に行きたいと言えば、行けるという考え方に賛成しています。というのも、北京、上海は北京、北京や上海に住む人たちだけのものではなく全国民のもので、大都市に行きたいという若者の考えは理解できます。先ほど、敷田先生がおっしゃった日本の発展の歩みは、たいへん参考になります。食糧問題などは、大変難しい課題だと思います。現在、上海が直面している問題は、住宅問題と交通問題です。

敷田博昭

地下鉄工事が進んでいると伺っていますが、それでも交通問題は深刻ですか。

宋儀僑会長

今の上海の地下鉄のキロ数は、150キロ余りですが、計画は2010年までに400キロです。2012年までに500キロです。今、市内でどんどん建設していますが、ほとんどが地下鉄建設です。やはり、未来の交通問題を解決するためには、地下鉄工事を優先しなければなりません。

私は、東京にいたとき、ほとんど地上で人の姿を見ませんでした。日曜日に地下で多くの人を見ました。将来の上海の発展も、おそらくそういう状況でしょう。

鈴木恒夫

今年、広州と上海を結ぶ大きな橋が出来たと思いますが、その経済効果はいかがですか。

宋儀僑会長

この橋は、上海の経済と交通面にとってメリットは大きいと思います。

昨日は、浦東区において説明会が行われ、揚子江デルタの26の都市の代表者による会議も行われています。その説明会のテーマは、万博とこの上海周辺の地域のサービス業の発展についてです。上海の韓正市長もメッセージを寄せています。この代表者たちは、今、上海に来るのはとても便利だと言っています。鉄道とか飛行機を利用して、上海まで1時間で充分ですが、市内の移動にも1時間かかります。私は、代表者のみなさんに、将来は地下鉄の発展に伴い、交通問題は解消していくと言いました。今の、状態は交通難だと思います。

今、政府は公務員に車のナンバーによって、日にちを分けて車の台数を制限しています。この施策は、この交通問題が解消すれば必要なくなります。

先ほどの広州大橋は、私も利用しましたが、とても便利です。従来のルート

と比べると120キロも短縮できます。この橋は、上海と寧波の間につくられたましたが、広州は三角形のもう一方の頂点に位置していますから、上海から広州へはあまり変わりませんが、上海から寧波に行くには、時間をとても節約できます。その橋は、上海の空港のある浦東を結んでいますが、浦東には、港もありますから、それを利用すれば経済面ではとてもメリットがあります。都市と都市の間の移動は、こうした橋を利用すれば時間を節約できますが、市内の移動に時間がかかるというのが問題です。

ここ上海市内から、寧波市内まで約2時間半かかりますが、以前は4時間以上かかっていました。寧波という都市は浙江省の都市ですから車のナンバーは浙という漢字ですし、上海は、江蘇省は蘇という漢字です。この大橋のお陰で、週末は、浙と蘇のナンバーが増えています。

宋儀僑会長

先日のセミナーで上海万博と周辺地域との協力というテーマですが、上海と周辺を3時間で結ぶという目標がありますが、現在、それは達成されています。先日、20数か所の都市のトップが上海に集まりまして、現在は3時間ということですが、将来的には2時間くらいで自由に往来できるという見通しをもっています。

現在、改革開放から30年たちましたが、日本の訪問団とお会したのは90年代です。やはり、以前、私は経済を担当していましたから、日本の経営者とお会いすることが多かった。日本人のイメージは、頭が大変いいと思いましたが、少しおとなしいと思いました。そういった点から積極的な欧米企業との契約の方が多かったように思います。現在、上海市内を走っている車はドイツの車が多いですが、私たちは、トヨタに話をしましたが、慎重すぎて、ドイツにとって変わられました。これは、昔の話で今、上海は新しい発展の時代を迎えました。今までの経験を生かして行かなければなりません。

昔のことわざがあります。『私たちは隣に住む人を選ぶことは出来ません。しかし友だちをつくることはできます。』

日本の大手電子企業のほとんどを訪問し、その技術の高さに感心しました。その理由を尋ねると、資源がないので技術を磨かなければならないと説明されました。技術が資源だと、技術は簡単に外に出さないと。

しかし、実は、上海はもっと保守的で、技術はあまり外に出しません。国内でもかなり批判されています。中国国内では、保守的なイメージがあります。先ほどの広州湾の橋の話、経済効果についての話がありましたが、揚子江を一つの龍とすれば上海は龍の頭のイメージです。上海は地方と連動して発展させなければならないという政策があります。周辺地域からもそうした要望があり

ます。ここ数年で、上海と浙江省を結ぶ橋や、江蘇省との間には、揚子江を渡る橋も出来ましたので大変便利になりました。上海は龍の頭ですから、自分だけではなく、尻尾の先まで発展させなければなりません。

これまでも、王祝さんを通じて促進会と日中発展協会とのつながりもありましたが、これからは、いかに具体化していくか、お互いが発展出来るようにしていくかが課題です。よろしくお願いします。

敷田博昭

横浜は、上海と姉妹都市、神奈川県は遼寧省と友好提携していますが、先日、知事も上海を訪問し、経済交流や観光客の誘致などのPRをいたしました。羽田空港からの距離、時間を考えれば、これからますます交流機会が増えると思います。今日を機に、様々な分野の交流が盛んになることを期待しています。

今日は、ありがとうございました。



10月24日(金) 午後

上海世博会事務協調局訪問

方穎さん、范さんに展示ブースをご案内いただきました。



鐘燕群上海世博執行委員会副主任と面会

鐘燕群上海世博執行委員会副主任 あいさつ

ようこそお越し下さいました。上海での滞在は充実していらっしゃいますか。いつ、いらっしゃいましたか。

鈴木恒夫

昨日夕方、こちらにつきまして、今晚、横浜上海友好都市提携35周年に出席することになっています。

鐘燕群副主任

先日、大阪の橋下知事が見え、ご案内いたしました。

鈴木恒夫



私も学生時代大阪万博が開催されましたが、ワクワクしたのを覚えています。

鐘燕群副主任

1970年に大阪で開催された万博は、大変深い意味をもっています。それは、はじめてアジアの国で行われました。これは深い意味があります。

大阪万博で開催される以前の百数十年間は、万博はずっと欧米で開催されてきましたし、来場者は、これまでで最高的人数です。大阪万博の6300万人という数字は、それ以降の万博でも超えられていませんが、上海万博は、今の目標は7000万人です。中国は膨大な人口を擁していますので、おそらくこの目標は超えられると思います。

2010年の万博は、愛知万博に継いで行われるものですが、日本の友人から関心を寄せていただいています。やはりこちらに訪問された方の中で、日本の方々が一番多いです。今度の2010年の万博には、もっと多くの日本人の訪問を期待しています。日本では何度か、万博が開催されていますが、総合的なもの、専門的なものいろいろありましたが、今回の万博も様々な関心を集めて多くの日本の方が訪れて下さることを期待しています。

今度は、王祝さんを通じて、もっと多くの日本の友人が万博を訪問していただけるよう、よろしく願いいたします。日本では、万博を宣伝する雑誌、マガジンがありますが、これまで2回発行しました。

鈴木恒夫

我々も、とても楽しみにしていますが、入場券がなかったり、ホテルがとれなかったりといったことを心配しています。

鐘燕群副主任

ホテルは、問題ありません。上海市内では、ホテルは充分です。また、周辺の都市からのアクセスも大変便利ですので、問題ないと思います。問題は、交通問題だと考えています。

やはり、この辺りは上海の中心部ですので、7000万人が訪れます。一日に換算すると約40万人、この40万人の移動が大変な問題だと考え、今、悩んでいます。

鈴木恒夫

万博が終わったあとの都市づくりや万博による経済波及効果など、どのように考えておられますか。

鐘燕群副主任

やはり愛知万博とよく似ていると思います。多くの建物は一時的な建物ですので、4つだけ残します。中国館、万博会議館など4つだけ保存して、それ以外は取り壊して別の利用を検討します。現在、いろいろなプロジェクトを計画中です。

鈴木恒夫

大阪の場合は、住宅地に整備をしましたが、こちらは、例えば、住宅地をメインにするとか、工場をメインにするとか、オフィスビルをメインにするとか、そういった計画はありますか。

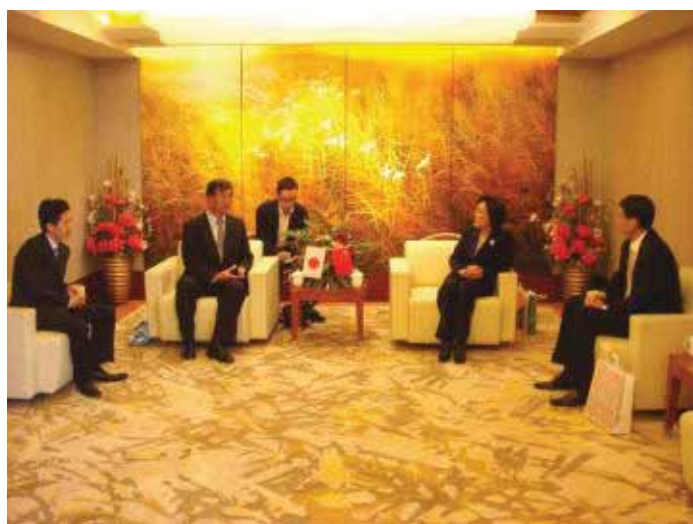
鐘燕群副主任

この地区は、既に基礎的なインフラ整備は完成していますので、2次開発は早いと思います。中国側が建てた施設は、これからも文化施設や展示施設として利用されます。また、外国が建てた施設は、原則として取り壊されることとなっていますが、その後の具体的な計画はまだ決まっています。敷地面積は40万平米に達していますが、この空間を利用していかなければなりません。住宅にする予定はありません。地下のインフラ整備は、既に完成していますが、地上の開発はこれから2次開発の計画を立てて行う予定となっています。確かに、取り壊すのはもったいないという意見もあります。開催している間の評価や建築様式など特別な価値があるなど様々な点を総合的に検討して、判断していきたいと思います。

敷田博昭

今日は、貴重なお時間をいただきありがとうございます。橋下大阪知事が万博会場を視察された際、ご案内されておられる鐘副主任のお姿をテレビで拝見いたしました。

今日、午前中、上海外国語大学、そしてお昼を政治協商会議の皆様とご一緒させていただいて、明日、早朝の便で帰りますので、今日、視察先



としては最後となります。上海は、私の初めての海外旅行が、横浜から鑑真号という船に乗って訪れたのが初めての海外旅行先ということで、大変思い出深

い都市ですし、その後、王さんを通じて4回ぐらいでしょうか、お邪魔させていただいております。そうした意味では、2010年の万博が大変楽しみです。

北京オリンピックが開催されましたし、今晚、私も出席致しますが、横浜上海友好提携35周年、また、来年が横浜港の開港150年という節目を迎えます。そしてその翌年2010年には、上海で万博が開催されるということで、中国そして日本が大きな節目をそれぞれ迎え、またそうした節目に立ち会えたことを大変嬉しく思います。

鐘燕群副主任

上海と横浜、そして大阪は緊密な関係で結ばれておりまして、毎年人的な交流が盛んに行われています。横浜と上海は似ているところがたくさんありますし、30年以上つき合っていますから良い友だちになっているはずです。

特に、ここ30年は上海にとっては、素晴らしい発展を遂げた期間だと思います。特に、オリンピックや、また上海万博の開催は中国の経済にとってとてもプラスになると思います。

下のブースを説明してくれたと思いますが、また、屋上から会場予定地一望できるのでご覧いただいて、それから2010年、もう一度こちらにお越しただければ、関係はもっと深くなると思います。2010年は、お客さんとしてまた来られることをお待ちしております。現在の準備の様子をよく見ていただいて、また2年後来て、是非、比較していただきたいと思います。

ほんとうに今回の上海の滞在は、きついですね、日程がびっしり詰まってますね。実際、今の上海はとてもよい季節ですから、上海らしい場所も見ただければよろしいかと思います。王祝さんは、上海の方ですから、また、ご案内してもらって下さい。



屋上から、会場全景を視察



10月24日(金) 夕方

横浜上海友好提携35周年記念レセプション

司会（呉金蘭上海市人民政府外事弁公室副主任）

中国側からは中国政治協商会議上海市委員会の周副秘書長、上海市外事弁公室、港灣局、都市計画局、上海人民対外友好協会の代表、またこの35年間両市の友好交流のために、大きな貢献をされました上海市のOBや各界の代表の方々にもご出席いただいております。

日本側からは、横浜市中田宏市長、横浜市会吉原訓議長、在上海日本総領事館石井主席領事、また横浜市各部局の代表ならびに、各分野からの200名の方々のご出席をいただきました。

上海市と横浜市は1973年に友好都市を提携いたしました。上海にとっては、初めての友好都市でした。35年間両市は多くの分野において実り多い交流と協力を展開して参りました。本日の記念イベントは、今までの成果のまとめであると同時に必ず未来に向かうための美しい姿となれることと確信しています。

それでは、上海市の唐登杰副市长にごあいさつをいただきたいと思ひます。

唐登杰副市长 あいさつ

尊敬する中田市長、吉原議長、友人の皆様、こんばんは。

爽やかなキンモクセイの香りする美しい季節に横浜市中田市長はじめ、横浜市から多くの方々が上海市を訪問されることとなりました。まず、ここに上海市の韓正市長、上海市人民政府ならびに1900万の上海市民を代表いたしまして、中田市長ならびに横浜からお越し下さいました横浜の皆様にごあいさつを申し上げ、また心から歓迎の意を表したいと思います。

上海と横浜はいずれも、世界的に有名な港の都市であり、またそれぞれの国において経済と貿易の中心都市であり大きな役割を果たしている都市です。横浜は上海にとって初めての友好都市であり、また上海がもっているすべての友好都市の中で最も緊密に連携をとっている都市の一つです。

今年、上海横浜友好提携35周年を迎えることができました。この35年間、



両市の指導者ならびに各界の方々が相互間の交流を重要視して、双方は経済、貿易、都市建設、文化、教育、科学技術、衛生、港、青少年交流など、各分野において幅広く交流と協力を展開し実り多い成果を上げて参りました。

この歴史を振り返って見ますと、私たちの交流は豊かな成果と相互理解の促進と友情が結ばれ双方の良好な発展を遂げることができました。35周年という記念すべき年にあたり、中田市長はじめ横浜の議長、各政府部門の代表ならびに各界からの友好人士が200名近く上海を訪れることとなり、このことは両市の間に深いまた広範な友情の基礎があることに心を動かされています。この場をお借りし、中田市長、横浜市の方々、横浜市民の方々、ならびに上海での両市の友好交流に大変大きな貢献をされました上海の方々にも感謝したいと思います。

今年は、中日平和友好条約締結30周年であり、また中日青少年友好交流年でもあります。この一年の間、中日関係は、喜ばしい新しい発展を遂げました。未来に夢を向けて、両市の友好交流を評価するための非常に良いきっかけが見えてきました。来年は、横浜開港150周年、また再来年上海では万博が開催されます。これらのイベントは必ず両市間の交流と協力をさらに強める良いきっかけ、空間を与えてくれるものと思います。

これからも、引き続き横浜市とともに手を携え、上海横浜友好提携35周年をきっかけとし、また中日両国の指導者が確認した平和協調、世界友好、互惠協力、共同発展の方針に基づき、協力の分野を引き続き広げ、協力のレベルを高め、今まで受け継いできた両市間の伝統をさらに広げ、中日両国の友好関係ならびに両市の共同繁栄のために絶え間ない努力をしていきたいと考えています。

最後になりますが、中田市長をはじめとする横浜からお越しの方々のご訪問が成功致しますことをお祈りして、またご来場の皆様のご健勝をお祈りして、私のごあいさつといたします。謝々。

中田宏横浜市長 あいさつ

皆さん、こんばんは。横浜市長の中田宏でございます。

今日は、横浜上海の友好都市提携35周年という節目にあたって皆様と一同に会しますことを心から嬉しく思います。また、横浜港と上海港は友好港としても25周年です。ここにご参加の横浜市民の皆さんがこうして上海に来て下さいま



して、私も含めて、これだけの人たちがこれからさらに上海との関係を築いていこうと、改めて決意をいたしました。

35周年という月日の間には、たいへんいろいろなことがありました。経済、スポーツ、市民交流も多く行われていました。

私は、高校生の頃でしょうか、上海の雑技団の皆さんがお越しをいただいて、その時、横浜で愛くるしいパンダを見ることができ、感激したことを覚えています。横浜から上海には、実は163もの多くの企業が進出しています。また、近年では、上海から横浜へも進出されています。ご案内のとおり上海は日本の企業が最も多く集中して、そしてレベルの高いビジネスを行っている拠点ですから、その上海市と横浜が友好都市であるということを誇り高く感じております。

これから先、横浜と上海の友好関係を発展させることは、日中両国にとって極めて重要なことでありますし、日中両国の発展友好ということは東アジア、アジア全体にとって、さらに世界にとって極めて重要な関係ですので、その意味において、横浜と上海との関係は世界のためにあると思っております。

去る5月には、胡錦濤国家主席が日本を訪問され、横浜をお訪ねになられました。私も、胡錦濤国家主席に昼食会を催ささせていただき、その席で1時間にわたってご一緒させていただきましたけれども、日中関係はアジアの発展にとって欠かすことのできない極めて重要な関係であるということについて、胡錦濤国家主席からも情熱あふれる言葉をいただきました。

横浜には、世界最大のチャイナタウン、中華街があります。横浜にとって、中国の皆さんは何の垣根もない市民でありまして、多くの中国出身の皆さんとともに、横浜の発展を期すことが中国の皆様を含めた発展につながるという思いを込めて横浜市政を展開しています。日本の都市の中で、圧倒的に中国の方が多い都市は、横浜であります。今後とも、上海との関係を深めるということは、横浜と上海の往来をもっともっと頻繁にし、もっともっと多くの方が往来することだと思います。

そうした意味においては、上海の虹橋空港、そして羽田空港との間の路線をもっと頻繁にして、ビジネスマンは日帰り、私たちは週末は上海へおいしいものを食べに来る。上海の人たちは、週末に横浜においしいお寿司を食べに来るといった関係をつくって、ビジネスそして観光といった関係からも横浜と上海の発展の意義深い一歩を踏みだしていきたいと思っております。

最後になりますが、来年は横浜開港150周年、そして2010年は上海万博の年であります。この35周年、来年の開港150周年、再来年上海万博といったように、両都市の地位をよりステップアップする行事が目白押しでありますので、お互いの成功が私たち全体の成功だという思いで、盛り上げていき

たいと思います。

ありがとうございました。

吉原訓横浜市会議長

こんばんは、横浜市会議長の吉原です。中田市長はじめ、多くの市民の皆様と一緒に上海に参りましたが、こんなにすばらしい歓迎をしていただきまして、心から感謝しています。友好提携35周年のこの記念すべきこの瞬間に、これからはさらに友情を深めて互いに協力し合って、互いによりよい発展を目指して努力していきたいと思います。市長からも話がありましたが、来年横浜は開港150年を迎えます。是非、多くの上海の人たちが、横浜を訪れていただくことを希望いたしております。

昨日、上海万博の開催予定地を視察させていただきました。是非、再来年は多くの仲間と一緒に万博に訪れたいと思います。これからは、上海市と横浜市両市がともに仲良く発展を続けていきますことを願いつつ、御礼のあいさつとさせていただきます。

記念品の交換

上海市から横浜市への記念品 掛け軸

中日友好 共創未来

(中日友好、ともに未来を切り開く)



横浜市から上海市への記念品

イヤープレート



司会

この記念すべき年のことをこれからも末永く皆様とともに心に留めていきたいと思ひます。また、皆様と一緒に未来に向かって切り開いていきたいと思ひます。それでは中日友好のため、上海と横浜の友情、上海と横浜の共同の発展のために乾杯したいと思ひます。乾杯。



(しきだ博昭、唐上海副市長、鈴木恒夫、王祝先)



(鈴木恒夫、吳外弁副主任、しきだ博昭、王祝先生)



(鈴木恒夫、しきだ博昭、中田市長、王祝先生)



(横浜日中友好協会新堀名誉会長、飯田会長と)



(上海の子供たちと)